

# 自然遊学館 だより

2002 WINTER (No.26)

2003.1.1

## 近木川河口生きもの調べ・カニ釣り

2002年9月7日、新月の大潮の日に毎年秋に恒例となっている近木川河口の観察会が行われました。一般参加者は58名で、今年も講師に近木川の貝類相を長年調べられている児島格さんに来て頂きました。午前中は、潮の引きつつある石の転がる前浜干潟で、石の下、潮だまり、波打ち際などで生きものを探していきました。

多く観察できたのは、ケフサイソガニやユビナガホンヤドカリでした。近木川河口での初記録種である巻き貝でイトカケガイ科のイナザワハベガイ *Alexania inazawai* とその産みつけた卵が見つかったことが特筆されます。この貝は図鑑によると潮間帯のタテジマイソギンチャクに付着するそうですが、この場所でもこのイソギンチャクは多くみられます。



石の裏に産みつけられたイナザワハベガイの卵塊

昼食後はハクセンシオマネキ、ヤマトオサガニの生息地を観察し、引き続きイワガニ類の生息するヨシ原で、人気のカニ釣り大会を行いました。エサはいつものようにタクアンです。今回の釣果はあまり良くなく、クロベンケイガニが29匹、ハマガニ7匹、ベンケイガニが1匹でした。この日は午後1時過ぎに干潮だったのですが、摂餌活動の活発さに潮汐周期が関係しているかもしれません。

(山田浩二)

## バッタとりと鳴く虫の声を聞く

2002年9月21日に名越千石荘において、当館の恒例行事である、秋の鳴く虫の声を聞く会を行いました。講師は4年連続で、日本直翅類学会の加納康嗣氏にお願いしました。また、ホシササキリの生態を研究されている大阪府立大学農学部の小田健一氏にも参加していただきました。以下に、加納さんが確認し小田さんがまとめたリストを報告します。

### キリギリス科

オナガササキリ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、クビキリギス、クサキリ、セスジツユムシ、ハヤシノウマオイ、クダマキモドキ類

## コオロギ科

ハラオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、  
エンマコオロギ、マツムシ、アオマツムシ、  
カヤヒバリ、カンタン

## カネタタキ科

カネタタキ

## バッタ科

ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタ  
モドキ、トノサマバッタ、ツチイナゴ

## オンブバッタ科

オンブバッタ

## ヒシバッタ科

ヒシバッタ類

加納さんの話では、マツムシの鳴き声が昨年より減っていたので、乾燥が進んでいるのかもしれないということでした。

(岩崎 拓)

## **アカトンボ観察会**

2002年10月5日、快晴の下、千石荘でアカトンボ観察会が行われました。松田勲、北田誠両講師を迎え、親子28名が参加しました。まず千石荘病院入口に集合し、簡単なアカトンボ類の見分け方を、松田講師に教えていただきました。まず千石城址を抜け、熊取町の大井谷池に行き観察をしました。その後、貝塚市のボタン池、牛神池での観察を終えていったん行事は終了しました。しかし、今回観察されたトンボは少なく、トンボの生息する環境が少なくなっているのではないのでしょうか？

観察されたアカトンボ類が少なかったので、講師およびスタッフは有志を募り、貝塚

市木積・畑に向かい、ミヤマアカネの確認をも行ないました。ミヤマアカネは南大阪でもこの辺りにしか確認されていない種です。今年も確認できましたが、むしろアキアカネが少ないと講師の北田氏は仰ってました。その後、講師陣やスタッフは、「いったいどこで生息して羽化をしているのだろうか？」という疑問が出てきました。おそらく、田んぼ周辺の溝に生息して羽化しているのだろうかという推測をしていますが、まだ確認できていません。今後はそれを課題に観察を進めていこうと思います。

以下に今回確認されたトンボ類や、他の昆虫類、植物を示します。

### (トンボ類)

オオアオイトトンボ、アオイトトンボ、ノシメトンボ、アキアカネ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、リスアカネ、オオシオカラトンボ

### (その他の昆虫)

オオカマキリ、クビキリギス、キリギリス、マルカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、オオメカメムシ、セアカヒラタゴミムシ、コクワガタ、コスナゴミムシダマシ、ヒゲブトハムシダマシ、マダラアラゲサルハムシ、オジロアシナガゾウムシ、ニクバエの一種、ナミアゲハ、モンシロチョウ、キチョウ、ウラギンシジミ、ツバメシジミ、ウラナシジミ、ヤマトシジミ、ゴイシシジミ、キタテハ、ヒメアカタテハ、コムスジ

### (植物類：湯浅幸子同定)

ヒヨドリバナ、ツユクサ、アレチヌスビト

ハギ、ヒメクマツヅラ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、クズ、カゼクサ、イヌタデ、チカラシバ、ヒメジョオン、アキノノゲシ、ヒナタイノコズチ、シマスズメノヒエ、ススキ、カナムグラ、キツネノマゴ、アメリカセンダングサ、コブナグサ、ジュズダマ、キンエノコロ、イヌビエ、メヒシバ、オヒシバ、ヤブマメ、ササクサ、ヌカキビ、イヌホウズキ、アキノエノコロ、ヨウシュヤマゴボウ、ヤブガラシ、ホナガイヌビユ、アゼガヤ、エノキグサ、ヨメナ、ノアズキ、コゴメガヤツリ、ケイヌビエ、メガルカヤ、ツリガネニンジン、シロザ、スベリヒユ、アオツヅラフジ、イヌガラシ、オオオナモミ、オオニシキソウ、チヂミザサ、ツルマメ、ホソアオゲイトウ、ハナタデ、カラスウリ、ホソバヒメミソハギ、ヒメミソハギ、イボクサ、チョウジタデ

(澤田義弘・湯浅幸子)

#### 〔付記〕

講師の北田氏は、貝塚市でトンボやチョウの観察をしておられ、遊学館に観察結果を電子メールで送って下さっています。10月12～13日に北田氏が観察した結果を下記に原文のまま示します。

#### ・10月12日 千石荘

トンボ：リスアカネ♂、ナツアカネ♂撮影  
チョウ：クロコノマチョウ、キチョウ、モンシロチョウ、キタテハ、ツマグロヒョウモン、ベニシジミ、ウラギンシジミ♂、コミスジ

千石荘でナツアカネは初見。

#### ・10月13日 馬場

トンボ：マユタテアカネ連結産卵、オオアオイトトンボ♂撮影、ネキトンボ♂採集、コノシメトンボ♂採集、アキアカネ♂♀採集、アオイトトンボ♂撮影、アオモンイトトンボ  
チョウ：ムラサキシジミ、ルリタテハ、クロコノマチョウ、モンキチョウ、キチョウ、キタテハ

馬場では造成工事が相当進行中。来年は無理かもしれない。馬場でのネキトンボ、ムラサキシジミは初見。アキアカネは意外に多く、10～20頭近く飛んでいた。

(澤田義弘)

### 市民の森の鳴く虫の声を聞く会＋生態園作業

2002年10月12日の午後7時30分から、講師に日本直翅類学会の河合正人氏をむかえて、自然遊学館に隣接する市民の森の鳴く虫の声を聞く会を行ないました。遊学館の多目的室で鳴く虫の各種の生息場所について簡単な説明を受けた後、市民の森へ出て、鳴く虫の声を聞き、採集も行ないました。以下に、鳴き声を確認した種と採集できた種を報告します。

#### ・鳴き声を聞いた種

(コオロギ科) エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ミツカドコオロギ、ハラオカメコオロギ、マダラスズ、シバスズ、ヒロバネカント

(カネタタキ科) カネタタキ

- ・その他、採集した種  
(キリギリス科) ホシササキリ、ツユムシ、  
クビキリギス  
(バッタ科) ショウリョウバッタ、マダラバ  
ッタ、イボバッタ  
(オンブバッタ科) オンブバッタ

去年の行事ではアオマツムシがさかんに鳴いていたのですが、今年は全く鳴き声を確認できませんでした。当日に限らず、今年は市民の森でアオマツムシの鳴き声を聞くことが少なく、河合さんも、同じような話を他のいくつかの場所で聞いたと言っていました。

また、当日の午後3時から行なったトンボの池のヤゴ調査では、アオモンイトトンボ属、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ショウジョウトンボのトンボ類の他、タマリフタバカゲロウ、コマツモムシ、チビミズムシ、メダカ、アメリカザリガニ、モノアラガイが採集されました。

(岩崎 拓)

## 貝塚の熊野古道を歩く

泉州ミュージアムネットワーク共通事業の一環として企画されたこの行事は、貝塚市教育委員会との共催で、貝塚市内の旧「熊野古道」を、歴史と自然の両面からたどってみよう、というものでした。

講師：上久保文貴前自然遊学館館長  
上野裕子学芸員

駅から堂の池 アゼガヤ (いね科) ホソバヒメミソハギ (みそはぎ科)

堂の池から墓 エノキ (にれ科) アカメガシロ (とうだいぐさ科) イシミカワ (たで科) メマツヨイグサ (あかばな科) ヨシ (いね科) セイタカアワダチソウ (きく科) ヤブガラシ (ぶどう科) ノブドウ (ぶどう科) アキノノゲシ (きく科) コセンダングサ (きく科) ノゲシ (きく科) カタバミ (かたばみ科) エノキグサ (とうだいぐさ科) オヒシバ (いね科) ヘクソカズラ (あかね科) アキノエノコロ (いね科) ノアサガオ (ひるがお科) カナムグラ (くわ科) ススキ (いね科) ヨウシュヤマゴボウ (やまごぼう科) ヨモギ (きく科) マコモ (いね科) ケイヌビエ (いね科) ジュズダマ (いね科) ムラサキツユクサ (つゆくさ科) イノコズチ (ひゆ科) シマスズメノヒエ (いね科) メリケンガヤツリ (かやつりぐさ科) サクラタデ (たで科)

橋本共同墓地 ツルドクダミ (たで科) ミチヤナギ (たで科)

丸山古墳 ミヤギノハギ (まめ科) イヌクグ (かやつりぐさ科) クヌギ (ぶな科) シマスズメノヒエ (いね科) シャシャンボ (つつじ科)、アラカシ (ぶな科)、チガヤ (いね科)、ネザサ (いね科)、イタチハギ (まめ科)

正福寺 メタセコイヤ (すぎ科)、ヤマモモ (やまもも科)、エノキ (にれ科)、サクラ (ばら科)、シュロ (やし科)、マサキ (にしきぎ科)、ネズミモチ (もくせい科)、ヒマラヤスギ (まつ科)、クスノキ (くすのき科)

南近義神社 クスノキ (くすのき科)、カクレミノ (うこぎ科)、アラカシ (ブナ科)、ネズミモチ、(もくせい科) クロガネモチ (もちのき科)、ヤブニッケイ (くすのき科)、イヌ

ビワ（くわ科）、ヤマモモ（やまもも科）、  
ウバメガシ（ぶな科）、ヤブツバキ（つばき  
科）、ヒメユズリハ（ゆずりは科）

（湯浅幸子・白木江都子）

## 近木川下流のヨシ原で遊ぼう

11月23日（土）、小春日和の中、近木川  
下流の河川敷に広がるヨシ原で、様々な遊び  
を総勢20名で行いました。

つる状に伸びるクズ（マメ科）の茎の長さ  
比べでは、一番長いもので、11m63cmもの  
長さがありました。また、それを編んで、味  
のあるカゴを作りました。ヨシ（イネ科）で  
は、ヨシ笛やヨシズを作ったりしました。良  
い音の鳴るヨシ笛を作るのに四苦八苦でし  
た。できたヨシズを使って、家作りをしてい  
る人もいました。軍手や靴下の上から突き刺  
さるアレチウリのトゲには、最後までつきま  
とわれました。以下に、当日確認された動植  
物の種名を記します。

トンボ目 アキアカネ♂成虫  
バッタ目 ツチイナゴ♂♀成虫（多数）  
オンブバッタ♀成虫  
カマキリ目 チョウセンカマキリ♀成虫  
オオカマキリ卵囊  
ハサミムシ目 ヒゲジロハサミムシ成虫  
カメムシ目 トビイロサシガメ幼虫  
コウチュウ目 ナナホシテントウ成虫  
チョウ目 モンシロチョウ成虫  
キタテハ成虫  
ヤマトシジミ成虫  
カナヘビ

枯れたアレチウリ（うり科）、ホシアサガオ  
（ひるがお科）、オオオナモミ（きく科）。そ  
の他クズ（まめ科）、セイタカアワダチソウ  
（きく科）、ヨシ（いね科）ジュズダマ（い  
ね科）、ヤブガラシ（ぶどう科）、ホソアオゲ  
イトウ（ひゆ科）花、カナムグラ（くわ科）  
花、ヨモギ（きく科）、ノゲシ（きく科）、ハ  
ッカ（しそ科）



鈴木勝也君の家が完成？

（山田浩二・岩崎 拓）

## 近木川源流探検

12月7日（土）、今にも降り出しそうな空  
模様の下、集合場所の蓄原バス停には申込者  
の内、約半数もの熱心な参加者が集まりまし  
た。

出発してしばらくして、早くも小雨が降り  
だし、道沿いにある民家のおじいさんが、「雨  
になるから、山へ登るのはおよし。カキをあ  
げるから。」と親切にも助言頂き、庭のカキ  
の木から10個程もいってくれました。

やはり、どんどんと雨はきつくなり、春日  
橋で折り返すことにしました。お昼には、キ  
ャンプ場の小屋で屋根を借り、お弁当を食べ  
ました。そこのおばさんが、「寒いやろうか

ら、火をやろう」とたき火をくれました。

川沿いの雨にけむる緑と、地元の方の親切さに触れられた行事となりました。



フユイチゴ採りに夢中の子どもたち  
(山田浩二)

## 館長と科学遊びをしよう

本年度第二回科学遊びである。まだ耳に新しい、小柴先生・田中先生の輝かしいノーベル賞受賞の喜び、その諸お話を引用させてもらいながらの「科学するとは」について、人には目は2つ、耳2口1、手足各2、よく聞きよく見、よく考えてよくよく動くこれこそが科学することの基本であると・・と言った導入から本日の課題に入る。

まずは、「水質検査」最近ではパックテストチューブで質量共に簡単に調べられるようになっている。ここでは上述のとおり道具や薬品を使わずともまず目や鼻でも出来る事を考えさせたり実験、良く見るでは全体を、部分を・・等と考えさせる。その後硝酸銀での塩分検定、ネスラー試薬でのアンモニア検定、過マンガン酸カリ等を使っての有機物検定等を実験。

「空気鉄砲」では、ダンボール箱で作った

鉄砲でローソクの炎を板の衝立の後ろに置いて消したり、太い丸筒の後ろの火を消す。

「アナログ時計で方位を知る」では何処へ行っても、迷子(方位)にならないためにも木々の年輪、枝の付きよう夜は星を眺めて、そして昼は、太陽を使って時計の中心に立てた爪楊枝の影を短針に重ねると12の文字の方が北だ。

「備長炭電池でモーターを回そう」では電池の構造と果物電池、77円電池(10円玉と1円玉で77円)を知り、備長炭電池でモーターが勢い良く回ることに感動する。

最後の「水ロケットを飛ばそう」では、館裏の芝生の広場で自転車の空気入れで汗をかいて——よーい発射の合図で、作用反作用水を後ろに吹き飛ばしながらに・・・飛ぶお飛ばしに大歓声で 今日の実験はおしまい。

(福本泰承)

## 脇浜戎神社観察会

前回、夏号で報告した脇浜戎神社のその後を報告します。10月5・6日に神社の低層の枝の剪定が行われました。木を剪定して、サギ類の個体数を減少させ、神社の糞などの被害を少なくするためです。コサギは無事に埕(ねぐら、鳥が眠る場所)として利用を続けているようです。

10月11日に西小学校のみなさんと観察会を行いました。この日はサギ類の姿を見ることができませんでしたが、西小学校の理科クラブのみなさんでサギ類を数えるなどの調査をしてくれることになりました。みなさんと一緒にサギ類のコロニーが守れるよう、頑張っていこうと思います。

(石毛久美子)

## 去年の春に水間公園で採集したゴキブリ

去年の4月9日に水間公園のコナラの倒木から採集した昆虫については、自然遊学館だより2001夏号で報告しました(オオゴキブリ、ヤマトシロアリ、カブトムシ幼虫、チビクワガタ、ヒメオビオオキノコムシ、ユミアシゴミムシダマシ、オオクチキムシ)。しかし、オオゴキブリの他に採集したゴキブリの幼虫とアリの種名が不明なままでした。

そのゴキブリは遊学館に標本がないヤマトゴキブリである可能性があると思い、遊学館の研究室で飼育することにしました(約25°Cでほぼ一定の温度条件)。500mlの透明プラスチックカップ内で、餌としてリンゴを与えて飼育しました。それから夏、秋、冬、春、夏を越して、今年8月30日に成虫になりました。ということは、捕まえた時点で終齢幼虫であり、終齢幼虫期間が少なくとも1年以上だったこととなります(飼育温度が低すぎたのかもしれませんが)。それで種名はというと、期待したヤマトゴキブリではなく、家屋内によく侵入するクロゴキブリであることが分かりました。その時に採集したオオゴキブリの幼虫は当館の展示ケース内で成虫になり、現在も生きています(なかなか姿を見せませんが)。

アリに関しては、日本蟻類研究会の会員で熊取町立西小学校の平峰厚正先生にテラニシハリアリと同定していただきました。

(岩崎 拓)

## アメリカ西海岸採集記

ぼくは、去年の夏から今年の夏まで、アメリカ西海岸のオレゴン州の Robert Gray Middle School という中学校に転校していました。そこで、その夏にぼくは、ワシントン州の海岸に1泊2日の旅に行きました。そこで僕が捕まえたのは赤いカニでした。また、雨上がりの日に近くの原っぱで大きなナメクジを見つけました。その何週間後かにオレゴンの Cannon Beach というところで、30cmくらいもある大きなヒトデをつかまえました。その、翌年の夏に友だちとタイドプールに行きました。そこで、ぼくは一番ほしかったウミウシの仲間を二種類捕まえました。また、砂漠に行ってそこで昆虫を何種類かつかまえました。他にもいろいろなものを捕まえました。以下に僕が捕まえたものを書きます。

(海辺の生きもの)

クラゲの仲間	
ナメクジの仲間	Banana Slug
ウミウシの仲間	Ringed Doris
ウミウシの仲間	ミノウミウシ類
イチョウガニ科	Red Crab
ヒトデの仲間	Ochre Sea Star
スナホリガニ科	Atlantic Mole Crab
エビの仲間	Sand Shrimp
ヨコエビの仲間	California Beach Flea

(昆虫)

カメムシ目	ナガカメムシ科の一種
コウチュウ目	ゴミムシダマシ科の一種 1

ゴミムシダマシ科の一種 2  
 ハチ目 マルハナバチ属の一種

(水生昆虫)

カゲロウ目 コカゲロウ科の一種  
 トンボ目 均翅亜目の一種  
 (科まで同定できなかった)

ハエ目 ガガンボ科の一種  
 (クモ) ハタケグモ科の一種

(貝塚市立第五中学 2年 寺田拓真)



オニバスの葉を運搬する様子

(山田浩二)

## 市内のため池でオニバスあらわる！

今まで貝塚市内において生育の記録がなかったオニバス（スイレン科）が、石才にある田村池で見つかりました。泉州地域の植物生育状況に詳しい清水千尋さん（貝塚市役所道路公園課）が、9月5日その池の横を歩いて見つけたもので、ちょうど赤紫色の花を咲かせていました。

現在、オニバスは環境庁及び、大阪府のレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅱ類」に選定されており、絶滅の危険が増大しています。その生態は、一年生の種子植物で、種子は環境の急変などが引き金となって発芽するそうです。浮遊植物として日本で一番大きい葉をもつのですが、この池には一番小さい葉をもつミジンコウキクサもあり、対照的です。

葉、茎とも丈夫なトゲにおおわれているため、採集、運搬にはてこずりました。厚手のゴム手袋をしてさわり、かつ、葉が破れないよう慎重にしなければなりません。こうして運んだオニバスは乾燥させた後、さっそく館内で展示していますのでご覧下さい。

## NEWS

### 大阪府「私の水辺」大発表会

#### 近木っ子探検隊モクズガニ班が優秀賞！

大阪府下の水辺に関する取り組みを行う44グループが、自らの活動の様子を紹介する発表会が、12月1日、ドーンセンター（大阪府立女性総合センター）で行われました。

夏休みに近木川の下流・中流・上流と調査し、モクズガニの生活史を物語り風にした「モクちゃんの冒険」を発表した近木っ子探検隊モクズガニ班が、小学生の部で第2位にあたる優秀賞を受賞しました。

発表者：吉田美穂（貝塚市立二色小6年）

岸野浩己（貝塚市立二色小5年）

高野朝子（貝塚市立二色小4年）

---

### 自然遊学館だより 2002 冬号 (No. 26)

---

発行日 2003. 1. 1

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 0724(31)8457

Fax. 0724(31)8458

E-mail: [shizen@city.kaizuka.osaka.jp](mailto:shizen@city.kaizuka.osaka.jp)

---